

第7回 京都エリア観光渋滞対策実験協議会 議事概要

開催日：令和5年10月27日（金）

時間：14：00～15：30

場所：京都国道事務所5F会議室

1. 京都市における観光課題について

- 昨今の旅行需要を取り巻く環境の大きな変化により、今後、京都観光の本格的な回復が見込まれることから、京都市における観光課題とこれまでの取組みについて再度確認するとともに、今後の課題や方向性について意見交換を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。
 - 京都市の観光課題対策として公共交通の利用促進は一つの柱であるが、地下鉄の有効活用について考える必要がある。現状掲げられている方向性は良いと思うが、バスから地下鉄への転換を促すために鉄道に乗りなかなければならないような仕掛けも必要である。
 - 観光地での公共交通の使われ方や乗り継ぎの利便性等、データに基づいて観光交通の実態を把握して頂きたい。
 - 生活者視点でみると現状のバスネットワークは悪くないが、今後、インバウンドの増加してくることを認識して取組みを進める必要がある。現在の取組みを高度化するため、本協議会も活用して未来志向型で議論していけばどうか。

2. 令和5年度秋の観光シーズンにおける実証実験について

- 令和5年度の実証実験内容について意見照会を行い、概ねの了承を得られた。ウェブサイト内容や今後の検討に向けた委員からの主な意見は以下の通り。
 - 車を利用して東山に訪れる方が多くが若年層とのことだが、観光客全体の年齢構成と比べると極めて特殊な状況だと思うので、その理由を調べて頂きたい。
 - 観光客だけでなく京都市民にも情報提供し、土地勘のある京都市民の行動変容を促してみるのはいかがでしょうか。
 - 今回のウェブサイト内容は、態度行動理論という観点では有効なものとなっていると思う。次のステップとして、どうすれば情報を見てもらえるかやどのようなインセンティブを与えれば行動変容に繋がるか等、マーケティングの観点で掘り下げていく必要がある。
 - 観光客には通常の行動理論が通じないところがあるのかもしれない。環境に対する意識が高い人や身軽に動ける人は、高齢者や子ども連れに比べて行動変容をしやすいと思うので、そういう意味では29歳以下の観光客等、ターゲットを限定した働きかけは効果的かもしれない。
 - 自家用車の出発地について、公共交通で来京しやすいのに車で来る理由が何かあるのかもしれない。京都に来る道中で情報提供することで行動変容できることもあるのではないかと。
 - 自家用車の流入抑制によって日本人観光客が減るのも問題なので、それら減少傾向を観測しつつ、失いたくない観光客層をしっかりと囲い込めるような施策を検討することが大切である。
 - 道路のヒートマップに主要観光地の位置を提供する等、土地勘の無い観光客にも伝わるような配慮が必要である。
 - 手ぶら観光において、荷物がどこにあるかを追跡ができる可視化するシステムがあると、インバウンドの方も安心して利用してもらえるのではないかと。